2011 1
12号

独立行政法人
国立病院機構
National Hospital Organization

Matsumoto Medical Center

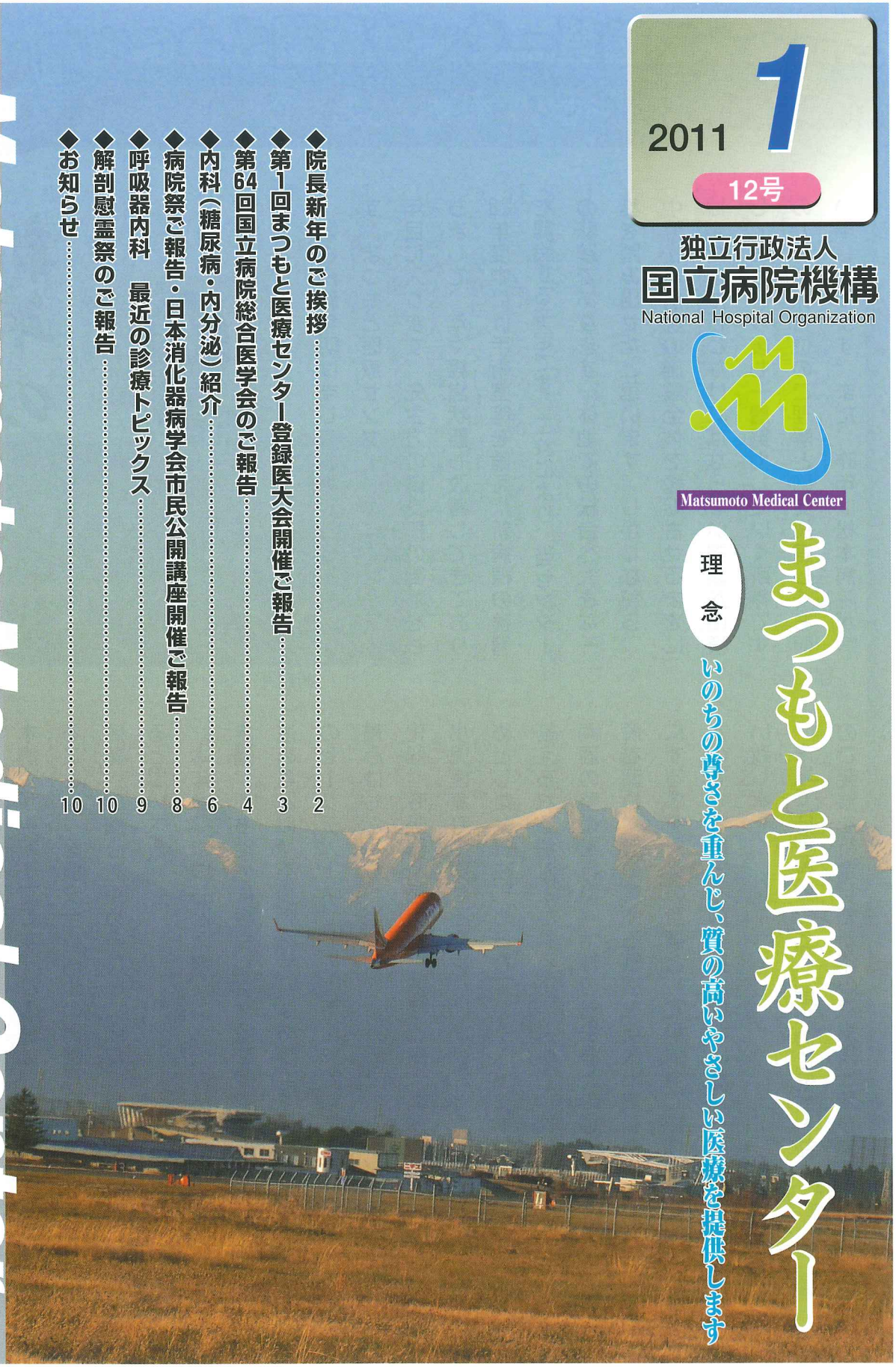
まつもと医療センター

理念

いのちの尊さを重んじ、質の高いやさしい医療を提供します

◆院長新年のご挨拶……2
◆第1回まつもと医療センター登録医大会開催ご報告……3
◆第64回国立病院総合医学会のご報告……4
◆内科（糖尿病・内分泌）紹介……6
◆病院祭ご報告・日本消化器病学会市民公開講座開催ご報告……8
◆呼吸器内科　最近の診療トピックス……9
◆解剖慰霊祭のご報告……10
◆お知らせ……10

Matsumoto Medical Center



北アルプスと飛び立つFDAジェット旅客機　信州まつもと空港

新年のご挨拶

院　長
米山威久（よねやまたけひさ）

皆さん新年明けましておめでとう御座います。まつもと医療センターも本年4月から4年目に入ります。先生方の御支援の御陰をもちまして、年々経営状態も改善してきており、23年度中には手術室等を備えた新病棟の整備を開始する予定です。これにより、当センターの悲願であります一体地での統合へ大きな一歩を踏み出せたと思います。しかしながら、中信松本病院の施設全体を移転させるまでにはまだまだ行わなければならない課題が山積しており、今後も一層努力していく所存ですので、関係各位のご理解と御支援宜しくお願い申し上げます。また、昨年は松本病院が病院機能評価Ver.6の認定を受け、今年は中信松本病院が更新予定です。この様な評価を受けることは、医療安全レベルの再確認及び環境問題への関心を高めることに非常に有益であると思います。

本年は、まつもと医療センターの目指すべき道、即ち地域に根ざした医療を確実に推し進める為に、不採算医療ではありますが、国のセーフティーネットには不可欠である結核、重心はもとより、当院の得意分野である、消化器、呼吸器、循環器、神経難病、整形外科、小児医療等の更なる充実をはかり、救急を初めとした、現在求められている医療に的確に答えられる病院となれるようハード、ソフト両面の整備を行い、地域の先生方との相互理解を深め、顔の見える医療を提供出来るようにする事を最大の目標として頑張って参りますので、今後とも御支援のほどよろしくお願い致します。

末尾では御座いますが、皆様のご健康と益々のご発展を祈念して新年のご挨拶と致します。

第1回まつもと医療センター登録医大会開催

～登録医との交流深まる～

まつもと医療センターでは、円滑で充実した地域医療連携を目指して、平成21年4月より登録医制度を運用しています。患者の紹介・逆紹介、共同診療、医療機器の共同利用など地域医療機関との密接な協力体制を築くことを目指しております。そうした中で平成21年10月、まつもと医療センター松本病院は長野県から地域医療支援病院として承認されました。平成22年10月末までに284診療所の医師・歯科医師の方々にご登録をいただき、まつもと医療センターは11月15日、松本市内で第1回登録医大会を開催いたしました。登録医・当センターの医師ら約100人が参加し、前半はセンター医師による診療実績報告、後半は診療科紹介と情報交換が行われました。

松本病院小池消化器病センター長は、「大腸がん等の診療実績」「新規抗がん剤治療」「大腸がんの治療ガイドライン」等を報告しました。矢崎心不全センター長は、「心不全の病態と治療」「心腎貧血症候群」「免疫と心不全」さらに「チーム医療としての心不全治療」等を報告しました。中信松本病院岩崎小児科部長は、中信松本病院における「新型インフルエンザと季節性インフルエンザ入院症例の比較検討結果」「インフルエンザに対する松本地域の医療機関の連携体制」等を報告しました。矢満田統括診療部長は、「10年間の肺がん手術成績とその分析結果（5年、10年生存率、組織型別生存率など）」等を報告しました。

矢崎心不全センター長講演

その後、宮林消化器科部長（松本病院医局長）が司会し、高島松本市医師会長、鳥羽塩筑医師会長、塚原塩筑歯科医師会長のごあいさつに続いて、情報交換と各診療科紹介がユーモアを交えて行われました。

情報交換会での呼吸器外科紹介

副院長　北野（きたの）　喜良（きよし）

第64回国立病院総合医学会の報告

11月26日（金）～27日（土）の2日間、福岡での学会で14題のポスター発表が行なわれました。

松本病院

「下肢疼痛に伴いADL低下した高齢患者への退院に向けての援助」
看護部（1C病棟）　田村淳美

「人工呼吸器離脱後抑うつ状態となった高齢患者への関わり」
看護部（1C病棟）　逸見由希

「患者へ自己紹介を行うことによる看護師への効果」
看護部（3A病棟）　清澤光世

「母親役割を中断された患者への精神的看護」
看護部（4A病棟）　南澤映里

「糖尿病患者のQOLを目指したカーボカウント法を利用する生活支援への取り組み」
看護部（4A病棟）　中畑真奈美、矢口綾子、滝沢夏美、田辺サエ子
栄養管理室　前澤有紀
内科　青木雄次、西村明子

「麻酔科医と手術室看護師による術前外来を開始して」
看護部（手術室）　大家真由美、唐澤由美、上部五月、新倉久美子

「カーボカウント法を利用する糖尿病食事指導の必要性について」
栄養管理室　前澤有紀、丸山由紀子、大日方暢
看護部（4A病棟）　中畑真奈美、高田礼子
薬剤科　後藤七生子
内科　青木雄次

中信松本病院

「神経疾患を有する患者の胃ろう造設後の経過および合併症」
神経内科　腰原啓史、大原慎司、武井洋一、小口賢哉
松本病院消化器科　宮林　秀晴

「広汎性発達障害を持つ児への関わり～成長ホルモン補充療法の自己注射への援助を通して」
看護部（1病棟）　原　強志、池谷みちこ、赤塚奈緒美、宮島明日香

「重症心身障がい児（者）の食事形態見直しへの取り組み～嚥下内視鏡検査を施行してむせの軽減をはかる」
看護部（3病棟）　桐原弓恵、橋本保子、上原啓子

「ディスポーザブル経管栄養ボトル・注入ルートの洗浄方法の現状」
看護部（7病棟）　吉田沙代、鈴木陽子、金井多恵、東條寿恵

「気管カニューレとダブルシーベル接続部固定方法の検討」～シューレースロックを用いて
看護部（7病棟）　足立秀幸、堀口千秋、橋倉梢、石井優子

「退院支援手順の共有への取り組み～在宅酸素療法指導パンフレットの作成と手順の整備」
地域医療連携室　黒田百合
相談支援センター　植竹日奈

「帰る場所のない死への関わり」
相談支援センター　植竹日奈

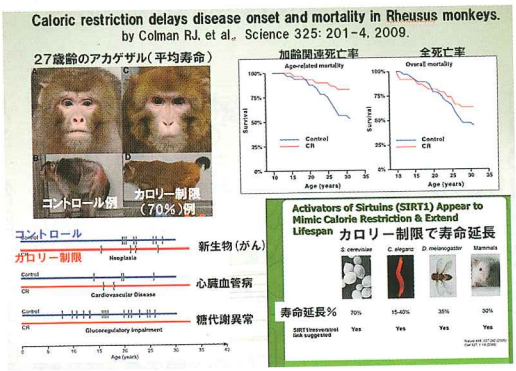
ベスト口演賞

高齢者2型糖尿病患者における6ヶ月間の低用量pioglitazone治療による老化関連血液マーカーへの効果

内科（糖尿病・内分泌）青木　雄次・他

長寿者の血液検査的特徴は、血糖が正常でインスリンが低い（インスリン感受性）、血中アディポネクチンが高値で高感度CRPが低値であることが知られています。インスリン抵抗性改善薬のアクトス（pioglitazone）は、アディポネクチンを一つの標的とする倹約遺伝子PPARγの刺激薬で、これらの特徴を再現できる糖尿病治療薬です。一方アクトスは、カロリー過剰となりやすく、また浮腫の問題も指摘されています。そこで、70歳以上の2型糖尿病患者（男性15名、女性15名）において、アクトスを男性に15mg、女性に7.5mgを6ヶ月間投与し、その前後の老化関連血液マーカーへの効果を観察しました。

経口糖尿病薬を減量したため、血糖コントロールは男性では改善したものの、女性では有意差がみられませんでした。血糖値の改善の有無に関わらず男女ともに、アディポネクチンとHDL-Cが有意に上昇し、酸化LDLが有意に低下しました。女性では、高感度CRPと副腎アンドロゲンに有意の低下がみられました。血漿アミロイドβは、治療前後で有意差は見られませんでした。低用量アクトスの6ヶ月間の治療で、軽度の体重増加はみられたものの浮腫はなく、抗動脈硬化または抗加齢を期待させる血液マーカーの変化がみられました。寿命を延長させる唯一の方法はカロリー制限で、昨年霊長類でも証明されScience誌に報告されました（図）。カロリー制限、長寿遺伝子、糖尿病治療の関係は、とても興味深く今後の進展が期待されます。

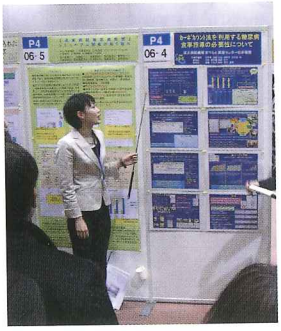


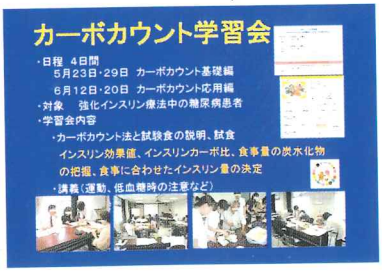
ベスト ポスター賞

カーボカウント法を利用する糖尿病食事指導の必要性について

栄養管理室　前澤　有紀・他

これまでチームとして取り組んできた「カーボカウント法」に関する活動が、ベストポスター賞という形で評価されました。これは、入院中の食事の炭水化物量の調整や、強化インスリン療法をしている方を対象にしたカーボカウント学習会、海外研修内容、今後の目標などから、私たち医療者が患者さんから学んだことをどのように形にしているか、またそれをどのように活かしていくべきかという考えを発表したものです。これは、患者さんの教えやアドバイスがなくてはできないことです。それぞれが、「教えていただいたこと、学んだこと」を活かしながら、今後はさらにチームとしても発展していけるよう努力して参りたいと思います。





松本病院

紹介

「地域連携：体験型外来糖尿病教室」3月オープンまでの軌跡

最近、松本病院の糖尿病診療では、カーボカウントがチーム医療の一つの合言葉のようになり、さまざまな活動を行ってきています。ここでは、診療科の簡単な紹介とともに、糖尿病診療におけるカーボカウント法の意義、松本病院での今年度の活動・成果、そして表題の糖尿病教室について紹介いたします。

糖尿病の世界共通のシンボルです

内科（糖尿病・内分泌）の入院・外来診療

当科の入院診療（主に4A病棟）は、現在1名で担当しており増員を希望しているところです。インクレチン関連薬（新規糖尿病薬）が利用可能となり、血糖コントロールの対応にも幅が広がっていますが、当科ではカーボカウント法の応用により興味深い効果が得られています。他科との協力で、糖尿病合併症の対応や併発症のスクリーニングなども可能な限り行うようにしています。外来は、青木（火・水・金）と信大糖尿病内分泌代謝科より石井（火）、兼子（木）が担当しております。患者さんにとって有益で効率の良い、地域連携を考えた外来診療を構築してみたいと思っています。その手始めとして、「地域連携：体験型外来糖尿病教室」を計画しました。

カーボカウント法とその周辺知識の有用性

糖尿病の食事療法を学習または指導する場合、日本糖尿病学会編「糖尿病食事療法のための食品交換表」がそのためのバイブルとして広く利用されています。各食品群が80kcal1単位としてまとめられており、エネルギー制限と栄養バランスを考慮した健康食のあり方を提供しています。最近になって、欧米で利用されているカーボカウント法という炭水化物に注目した糖尿病の食事療法が、日本でも取り入れられるようになってきました。カーボカウントとは、食後血糖値に影響する炭水化物量を数えるということですが、炭水化物量を中心に栄養バランスを組み立てていくものです。強化インスリン療法を行っている場合には、インスリン注射量の自己調節に応用されています。

今年度当初には糖尿病療養チームとして、強化インスリン治療中の患者さんを対象として、カーボカウント学習会や小冊子（はじめてみよう！カーボカウント）作成により療養指導を行ってきました。血糖認識トレーニングをはじめカーボカウント法の周辺知識は、患者さんのみならずスタッフにとっても糖尿病管理にとても有用です。これらの知識を応用して、現在は2型糖尿病患者さんにも対応可能なように、食品交換表にカーボカウント法を組み入れた新たな食事指導法の考案を試みています。

ステノ糖尿病センター海外研修の幸運

このような中とても幸運なことに、応募していた平成22年度海外研修「ステノチームトレーニング2010」（8月31日～9月3日デンマークの首都コペンハーゲン）に、まつもと医療センター糖尿病チームの4名（後藤・前澤・高田・青木）が選抜招待され参加することになりました。糖尿病治療や合併症の講義に加え、糖尿病療養指導のあり方について、さまざまな角度から研修を受けることができました。印象的であったことは、1型糖尿病患者の生活を模擬体験するということでした。また、ゲームなどを通じて、「教えること」「学ぶこと」を体感・学習し、また他施設のメンバーとの意見交換など、多くの刺激を受けることができました。研修最後の課題となったチーム医療のクオリティー向上に対し、帰国後に実行可能な計画として「外来糖尿病教室」を掲げました。そして、素晴らしい環境のもと充実した研修を終了し、メンバーそれぞれの立場で今後の診療や療養指導に、この研修の成果をしっかりと活かすことを誓

内科（糖尿病・内分泌）

い帰国の途に着きました。（炭水化物の秘密を探る「愉快なコペンハーゲンの旅」を出版しました。）

国病学会ベストポスター賞3連覇達成

そして、またひとつ目標を達成することができました。第62回国立病院総合医学会：前澤有紀・他「カーボカウント法を取り入れた栄養指導の試み」、同63回：中島久美子・他「当院の糖尿病フットケア外来における地域連携への取り組みについて」と、糖尿病関連でベストポスター賞を連続で受賞していたため、今年度の第64回は応募時点から3連覇を目標としてきました。その思いが通じ、前澤有紀・他「カーボカウント法を利用する糖尿病食事指導の必要性について」（栄養指導4）は、座長・聴衆に強い印象を与えることができました。座長がベストポスター賞を発表すると、なんと、他の施設の方から記念撮影の申し出があり、また座長がそのポスターを持ち帰るという異例の展開となりました。発表のテーマの一つがモチベーションでしたが、まさにこれが私たちのモチベーションの一つです。ついでながら、私もベスト口演賞（長寿医療）をいただきました。（5ページをご参照下さい。）

「地域連携：体験型外来糖尿病教室」をご利用ください

平成23年3月10日（木）10：00～15：30に、第一回の「地域連携：体験型外来糖尿病教室」を予定しました。参加費1、000円（学習用昼食含む：家族500円）で、連携室にて予約を受け付けます。外来受診の形態をとり、他院からは紹介受診となります（予約兼情報提供）。ステノ糖尿病センター、京都医療センターでの研修などを参考に、患者さんにはこれまでに体験したことのないような糖尿病教室を提供し、またより良い地域連携の構築を目指してみたいと考えています。

平成22年度業績

【研究助成】（代表）1. 長野県看護大学共同研究：中畑真奈美・他「糖尿病患者のQOL向上を目指したカーボカウント法を利用する生活支援の研究」2. 信州医学振興会研究助成：青木雄次・他「松本市および塩尻市における百寿者症例研究」3. 日本糖尿病財団助成：青木雄次・他「海外研修Steno team training 2010」；（分担）青木雄次：「2型糖尿病性腎症（糸球体硬化症）感受性遺伝子同定のための前向き研究」，「1型糖尿病治療の標準化と効果的な治療法の確立に関する研究」**【講演（チーム）】**1. 松本糖尿病フットケア研究会2010（6月25日松本市／ホテルモンターニュ）2. カーボカウント講演会（7月16日松本市／ザ・ブライトガーデン）3. 糖尿病カーボカウント勉強会（7月21日松本市／信州大学医学部附属病院）4. 北信地区カーボカウント勉強会（8月19日長野市／ホテルメトロポリタン長野）5. 病院栄養士協議会（10月26日駒ヶ根市／駒ヶ根総合文化センター）6. 中信糖尿病カンファランス・ステノ研修報告会（平成23年3月16日予定）**【著書】**1. 青木雄次，北岡治子（訳）：第6章カーボカウント応用編の教育方法．坂根直樹・佐野喜子監訳，糖尿病医療スタッフのための「実践！カーボカウント」，pp55-74，医歯薬出版社，東京，2010．2. 青木雄次，前澤有紀，丸山由紀子，中畑真奈美編：はじめてみよう！カーボカウント．株式会社プラルト，松本，2010．3. 青木雄次，前澤有紀編：炭水化物の秘密を探る「愉快なコペンハーゲンの旅」．株式会社プラルト，松本，2010．

内科（糖尿病・内分泌）　青木（あおき）　雄次（ゆうじ）

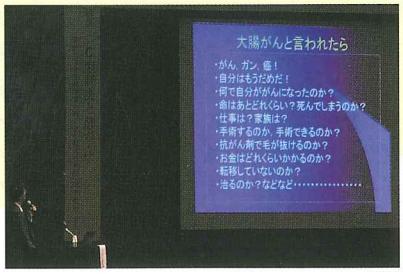
病院祭

10月16日（土）第2回まつもと医療センター病院祭を中信松本病院にて行いました。当日は天候にも恵まれ、中山太鼓の皆さんの勇壮な太鼓演奏にて開祭となりました。今回は小口塩尻市長に「産科医療確保への挑戦」と題した講演を、芳川消防署の小松消防指令補に「災害時の応急処置」の実演を、松本市民吹奏楽団には大変馴染みのある楽曲の演奏をしていただきました。また、地域住民の方々である「鈴の会」の皆さんに踊りを、「ちゅらの会」と「ハイサイ8」の皆さんに沖縄三味線演奏をお願いしました。地域の方々へのPRは我々の大きな課題でありますが、毎年継続して病院祭を開催していく事で当センターを少しでも多くの地域住民の方々に知っていただければと考えます。来年はさらに魅力のある病院祭の開催を目指し職員一同努力したいと思います。

統括診療部長　矢満田（やまんだ）　健（たけし）

日本消化器病学会 市民公開講座 開催報告

10月24日塩尻市レザンホールにて、日本消化器病学会市民公開講座が開催されました。宮林秀晴消化器科部長より、胃がんとヘリコバクターとの関連が示され、早期がんと進行がんの内視鏡像の提示、浅い表在性のがんでは、内視鏡治療が可能と話されました。大腸がんの話は、小池祥一郎救急医療部長より、解剖から、手術切除、化学療法の選択と話が進められ、最近の治療薬の進歩で、生命予後が著しく改善したと話されました。信州大学医学部田中榮司教授より、C型肝炎ウイルスの感染から慢性肝炎、肝硬変を経て肝細胞がんへ至ること、インターフェロン治療法により、ウイルス排除からがん予防が可能です。早期にがんを発見するには定期に画像検査を行い、治療は手術、局所治療、肝動脈塞栓術、そして肝移植も選択される話がありました。長野赤十字病院　清澤研道院長の司会進行で、熱心な参加者からの質問が飛びかい、活発な質疑応答がありました。参加者から「有意義な講演であった」「もっともっと多くの方に聞いてほしい」と感想が聞かれました。



統括診療部長　古田（ふるた）　清（きよし）

リレー形式

最近の診療トピックス(20)

肺結核症と肺非結核性抗酸菌症

一時、結核はすでに過去の病気だと考えられてしまった時期がありました。しかし、予想よりも患者数減少がみられず、十年ほど前に結核非常事態宣言がなされました。

現在、全国で年間に約2万5千人の新たな結核患者が発生しています。これは、いわゆる先進国のなかでは高く、わが国は、「結核の中蔓延国」の状況です。長野県の発生数は全国で最も低いほうで、大阪や東京などの大都市圏は長野県の3倍から5倍の発生数となっています。年齢別にみると、60歳以上が全体の60%から70%となっています。高齢化社会であることを考えると、結核はまだまだ身近な病気であることを意識しておくことが重要です。

結核菌は抗酸菌属に属する菌ですが、他にも人の肺に結核と同様な病変を起こす菌が10種類ほどあり、それらによる慢性肺疾患を総称して肺非結核性抗酸菌症と呼びます。その内の約80%はMAC症と言われ、Mycobacterium. AviumとIntracellulare両菌によるものです。結核菌と異なり人から人への感染はなく、両菌とも土壌や水場環境など自然環境に広く存在しているといわれています。感染経路や感染を受けやすい人の特徴などまだ不明な部分が多い疾患です。検診や、発熱、咳、血痰などの慢性呼吸器症状で発見されることが多く、結核の数倍以上の発生があると推測されます。治療はクラリスロマイシンという抗生物質に抗結核菌剤を2種類から3種類併用して行いますが、年単位の治療期間が必要で患者さんの負担はかなりのものとなります。今後有効な新規薬剤の開発が待たれるところです。

肺結核症も肺非結核性抗酸菌症も早期発見・早期治療が重要です。肺癌だけでなく、両疾患の早期発見のためにも胸部検診を受けていただく必要があるものと考えます。

呼吸器内科部長　早坂（はやさか）　宗治（むねはる）

解剖慰霊祭のご報告

11月1日まつもと医療センターの解剖慰霊祭が行われました。

この2年間に解剖にご協力いただいた36名の方々に対し、ご遺族関係者41名、病院職員38名が出席し、ご冥福を祈ると共に感謝の意を表しました。

他の施設の慰霊祭と異なり、当センターの慰霊祭では担当医がご遺族の方々に直接解剖結果についてご説明するのが特徴です。お亡くなりになられてから少し時間をおいて、改めて当時の状況あるいは新たに明らかになった病態についてご説明申し上げることは、ご遺族の方からの希望も多く、大変意義深いことと思います。

病理解剖によって病因・病態を解明するよう努めることは、医療行為を検証する為にぜひとも必要なことです。

改めて、ご協力いただいた皆様に深く感謝しご冥福をお祈り申し上げます。

医療情報管理部長　中澤（なかざわ）　功（こう）

お知らせ

松本病院 住居表示変更のお知らせ

平成22年11月1日より松本病院の住居表示が変更となりましたので、お知らせいたします。

皆様には大変お手数をおかけいたしますが、登録住所等の変更をお願い申し上げます。

新住所表記　**松本市村井町南2丁目20番30号**

旧住所表記　**松本市大字芳川村井町1209番地**

（郵便番号・電話番号・FAX番号の変更ならびに、中信松本病院の住居表示の変更はございません。）

中信松本病院 在宅医療研究会

テーマ
＊高齢者の骨折～治療、リハビリテーションから退院まで～
＊まつもと医療センターの退院支援

講　師／整形外科医長　若林真司
理学療法士長　玉井　敦
ソーシャルワーカー　植竹日奈

日　時／1月13日（木）17：30～19：00

場　所／中信松本病院　第一会議室

地域の医療・福祉に関わる方々が対象の研究会です。たくさんのご参加をお待ちしています。
（事前申し込みは必要ありません。）

問い合わせ先／中信松本病院　地域医療連携室　黒田
TEL. 0263-58-3121

●編集後記●

新年あけましておめでとうございます。皆様はどのような新年をお迎えでしょうか。

今年の干支「兎」にまつわることわざの1つに「兎の上り坂」と言うことわざがあります。兎は前足が短くて後ろ足が長いので坂を駆け上ることが得意です。兎が巧みに坂を上ることから最も得意とする場所で力を振る舞うことの例えとして言われます。一人一人の力を発揮できるような一年にしていきたいものです。今年もよろしくお願い申し上げます。

（K）

まつもと医療センター
第 12 号　平成23年1月1日発行
発行人　院長　米山　威久

松本病院
〒399-8701　長野県松本市村井町南2丁目20番30号
TEL.0263-58-4567　FAX.0263-86-3183
中信松本病院
〒399-0021　長野県松本市寿豊丘811
TEL.0263-58-3121　FAX.0263-86-3190
http://mmccenta.jp/